

中國所生者不遇淡苦二種、其一於後條也。宜高平之地、近山阜尤是所宜。黃白軟土爲良。正月二月中斂取、西南引根并莖芟去葉、於園內東北角種之。令坑深二尺許、覆土厚五寸。竹性愛向西南引、故自當滿園。云東家種竹、西家治地爲潤蔓而來生也。其居東北角者、老稻麥糖糞之、二樣各自堪。不用水澆、澆則死。勿令六畜入園。二月食淡竹笋。四月五月食苦筍。竹蒸煮熟、在人所好。其欲作器者、經年乃堪。殺未經年者、軟未成也。

〔草木錦葉集緒〕竹太く作方の傳

竹地植にて太く大竹になさんには、初穴のごとくなる地所低き、黒土の處へ植て吉。年々掃溜の類入れば、地所も自然に高く成。竹も太く出来る也。親竹はいかにも細き新竹。吉太き古竹にては子生せず。上根多くからみたれば、地かたくなる故。上根は掘捨てよし。廐肥掃溜など多く入れば、上根むれて腐るゆへ。掘世話なく別してよし。上根よりは太き子生せず。赤土場所にては、筍ひがらく苦みあり。黒土は上なり。自然に生ずるふきも同様にて赤土場は甚苦し。

〔剪花翁傳雜樹〕竹並小筐 方日向、地半濕、土回塵或芥埃真土雜も可也。砂は宜しからず。肥油粕酒糟獸魚大小便等、總て強く厚き物よし。又藁芥埃いか程も厚く置べし。株は植んとおもふ筈を立て、其已後に下枝五七節殘して、末の方を剪止置ば葉よく繁茂しげりて根もよく殖る也。翌年を経て、文翌年の秋彼岸より冬迄に移し植べし。小竹小筐ともに並び同じ。

〔燕居雜談〕裁竹日異名

竹をうるに五月十三日をよしとすること諸書に見えて、其日の名をさまぐに呼り、宋黃徹が碧溪詩話には、世傳五月十三日爲竹迷日。凡種竹多以五月。杜云東林竹影薄臘月更須栽、則唐人權竹用季冬月也。又云、平生憩息地必種數竿竹、嘗欲闢小軒、以必插目之とあり、是竹迷日と稱するなり。岳州風土記曰、五月十三日謂之龍生日、栽竹多茂盛とあり、是龍生日と稱するなり。藝苑雌黃に、種竹者多用辰日、又用臘月。惟五月十三日、人謂之竹迷日、栽竹多茂盛、或陰雨則鞭